

## 新大統領と韓国の刑執行停止

2012年12月

弁護士 堀 和 幸

韓国の大統領選挙で朴槿恵（パク・ウネ）氏が当選した。

朴氏は保守系の与党セヌリ党の候補者であり、周知のとおり、軍政下で独裁的な権力を振るった亡朴正熙（パク・チョンヒ）大統領の長女である。以上の様な出身政党、出自等からすれば、死刑執行を再開する可能性が高いとも考えられる。

しかし、朴氏は父親のみならず、母親も暗殺で失うという悲惨な経歴を有しており、個人的には、いかなる理由であれ命を奪う（奪われる）ということについては否定的ではなかろうか。

又、朴氏は独裁者の長女というイメージを取り除くことにも熱心であり、2012年9月には、父の行った軍事クーデターや人民革命事件について、「当時の政権下で弾圧されて苦痛を受けた被害者とその家族に心から謝罪する。」と述べている。

人民革命党事件というのは、韓国中央情報部（KCIA）により反共法や国家保安法によって訴追された事件であり、1975年、韓国大法院（最高裁）は8人の被告人に死刑判決を言い渡し（判決から18時間後に刑が執行され）た。しかし、2007年に死刑が執行された8名全員に（再審）無罪の判決が言い渡されており、現在では、司法による殺人事件、朴正熙時代の韓国における人権抑圧の典型事例として知られている。朴氏が父のイメージを払拭するためには、単に、国民を弾圧したという点のみならず、これにより無辜の者を死刑にしてしまったということについても謝罪しなければならないであろう。

更に、韓国では、人民革命党事件を含め、軍政下で弾圧されていた多くの活動家が国会議員等として政治に、そして死刑廃止に関わるようになっており、3回目の死刑廃止法案の発議者である柳寅泰現議員も民主化運動で死刑判決を受けた元「死刑囚」である。この様な情勢の中で、死刑執行を再開すれば、野党の反発は必至であろう。

朴氏は、父から引き継いだカリスマ性による韓国経済の発展を期待されて当選したと言われている。このためには、EU諸国との良好な関係維持も必要不可欠である。死刑執行の再開はEUの反発を買い、韓国の国益にも反するであろう。

以上の様に考えると、朴大統領の下でも死刑執行再開の可能性は低いと思う。否、むしろ、期待も含めてではあるが、カリスマ性が高く、保守派の反発も少ない朴氏こそ、死刑を廃止できる大統領と言えるのではないであろうか。